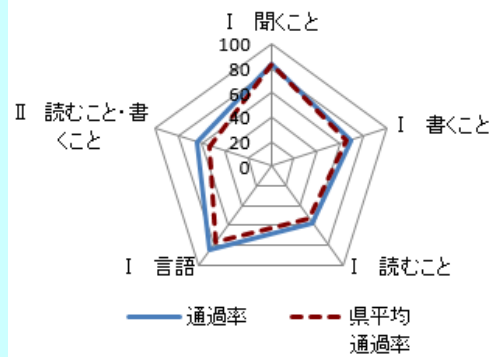
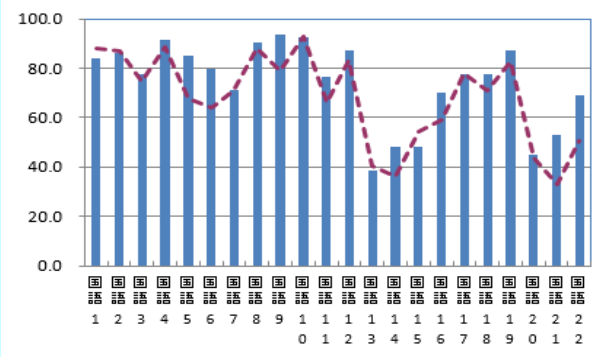


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.1%, 県 68.0%)

領域別平均通過率



年度別平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

国語科の結果において、タイプⅠは76.4%、タイプⅡは63.6%の通過率となっている（音声問題後日実施のため、参考値）。県平均及び前年度と比較すると、タイプⅡが大幅に向上している。しかし、タイプⅠの読むこと、書くことに課題があり、今後さらに力を付けていく必要がある。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

目的に合わせてキーワードを探しながら資料や問題文を読んだり、条件に合わせて文章を書いたりする活動を設けることにより、必要な情報を取り出す力は伸びてきたが、理由や事例を挙げながら構成を組み立てて書くことに課題がある。

重点課題

【課題1】 問題文の意図を正確に読み取れていない。(通過率 38.7%)

- ・本文からどこを抜き出すべきか、検討をつけることはできているが、適切な箇所を抜き出すことができていない。
- ・指定された文字数に合わせて抜き出せていない。

【課題2】 基本的な文章構成が定着していない。(通過率 48.4%)

- ・文末表現から、書かれている内容を推察することができていない。
- ・語彙力が不足しているため、文章の意味を理解できていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】・文学的な文章を読む授業では、情景描写など、暗喩的に心情を読み取らせるような言葉に着目させ、語感から想像を広げるような指導を行う。さらに、どこに根拠があるのか明確にさせながら表現させる。

・目的に応じて中心となる語や文を捉えさせ、それらに関係付けながらまとめる学習を仕組むとともに、問題を先に読み、問いを把握してから本文を読み効率よく解答するなどのスキルを身に付けさせる。

・書き終わったら必ず読み返すよう指導し、条件に合っているか確認する習慣を身に付けさせる。

【課題2】・低学年の時から、各学年での説明文・物語文等の文章構成を確実に押さえるとともに、接続詞やキーワードには線を引かせたり、辞書を引いたりして言葉の意味を理解させる。

・文末表現を意識して書いたり、話型揭示を活用して発表したりすることで、内容を推察する力を付ける。

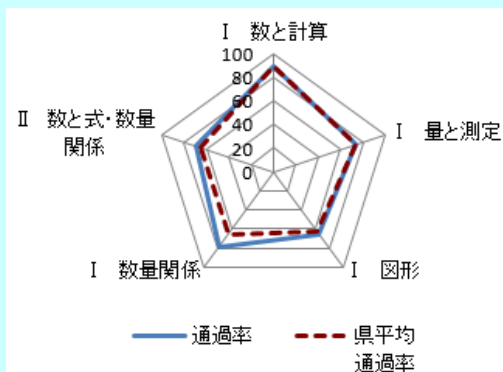
・新聞記事や図鑑などから必要な情報を取り出す活動を意図的に仕組み、様々な文種に触れる機会を増やすとともに、多読や速読などの読書活動を推進し、語彙数を増やす。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H29「基礎基本」
目標値			45%			4年50%・5年50%	55%
実施後数値							

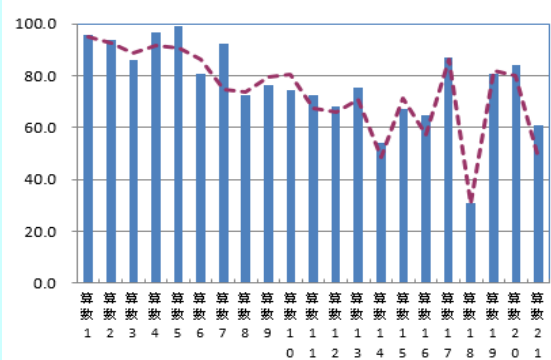
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H29「基礎基本」
目標値			55%			4年60%・5年60%	65%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.8%, 県 74.3%)

領域別平均通過率



算数科の学習状況



本年度の結果について

○全体的な傾向
算数科の結果において、タイプⅠは79.4%、タイプⅡは68.7%の通過率となっている。前年度と比較すると、タイプⅡは9.5ポイント向上し、県と比較しても3.4ポイント上回っている。しかし、タイプⅠの数と計算領域の分数の意味と表し方や同分母の減法、量と測定領域の条件を満たす時刻や重さの読み取り、図形領域の三角形の作図、タイプⅡの数量関係の理解に課題がある。

○昨年度の課題への取組の成果と課題
授業において、自分の考えをノートに記述し、根拠を明確にしながら相手に伝える場を設定したことで、少しずつではあるが、自分の考えを論理的に組み立てて説明することができるようになってきた。しかし、操作活動の際、道具操作の意味付けが不足しており、知識・技能と意味理解が関係付けられていないという課題がある。

重点課題

- 【課題1】折れ線グラフから情報を正しく読み取り、関連付けて説明することができていない。(通過率30.9%)
- ・グラフの目盛りの幅に関するものみに注目して正しく読み取れていない。
 - ・読み取ったことを文章で論理的に説明できていない。
- 【課題2】直角三角形の定義を理解して、作図できていない。(通過率67.0%)
- ・マスの角は直角であることに気付いていない。
 - ・与えられた条件を読み取れていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

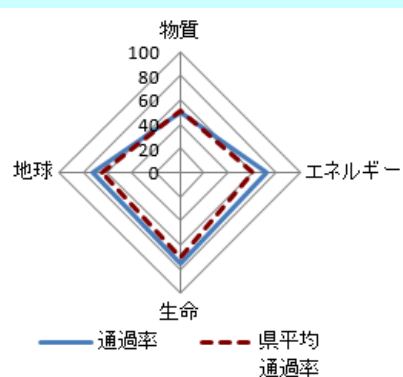
- 【課題1】・グラフを比較するときには、それぞれの目盛りの幅や数値などに注意する必要があることに気付かせるために、グラフを様々な大きさの目盛りで表したり、目盛りの数値を読んだりする学習を仕組む。
- ・グラフの特徴を説明するために話し合いを仕組んだり、伝えたいことがよりの確に伝わるように、グラフを表現し直したりする活動を仕組む。
- 【課題2】・直角三角形だけでなく二等辺三角形や正三角形、平行四辺形やひし形などの作図の際に、コンパスを用いて作図するだけでなくマス目も利用して作図する活動を仕組み、コンパスやマス目を用いる理由も話し合うことで、作図の操作と図形の性質を関連付けて指導する。
- ・各学年の図形領域の内容の系統性を意識して系統的な指導を行うとともに、1つの図形を多面的に見ることができるような算数的活動を授業に取り入れる。
- ・与えられた条件を正確に読み取ることができるように、ジオボードなどを活用して、いろいろな図形を作らせる活動を取り入れる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H29「基礎基本」
目標値			50%			4年70%・5年60%	75%
実施後数値							

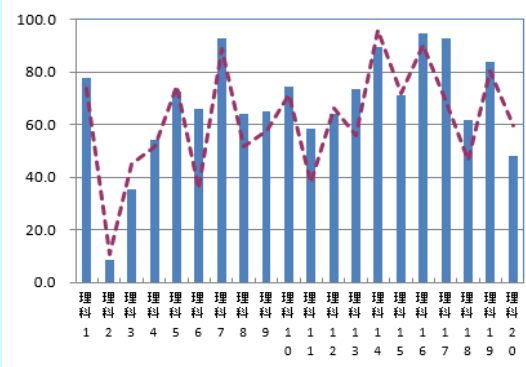
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H29「基礎基本」
目標値			70%			4年70%・5年75%	75%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 67.3%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



理科JWSH実態調査



本年度の結果について

○全体的な傾向

理科の結果において、タイプⅠは78.5%、タイプⅡは53.7%の通過率となっている。前年度と比較すると、タイプⅡの通過率が下がっている。温度計の読み取りや、実験の際に結果を根拠を明確にして予想したり適切な検証方法を選択したりすることや結果をもとに考察したりすることに課題がある。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

観察・実験における場面で、観察・実験器具を一人一人が操作できる時間を設けることにより、虫眼鏡の扱い方や光電池や乾電池のつなぎ方は身に付き、日常生活における科学的事象について理解が深まった。しかし、現象や予想を確かめるための実験計画を立てたり、結果をもとに適切な用語を用いて考察したりすることに課題がある。

重点課題

- 【課題1】 空気銃砲で前球が飛ぶ理由について、予想したことを確かめるために、条件制御をした実験計画を立てることができていない。また、実験で確かめることができることを適切な言葉を用いて説明することができていない。(通過率8.5%)
- 【課題2】 水や空気のあたたまり方について、現象については理解しているが、それを適切な言葉を用いて説明することができていない。生活経験が乏しく、水や空気のあたたまり方などの学習した知識が身に付いていない。(通過率35.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

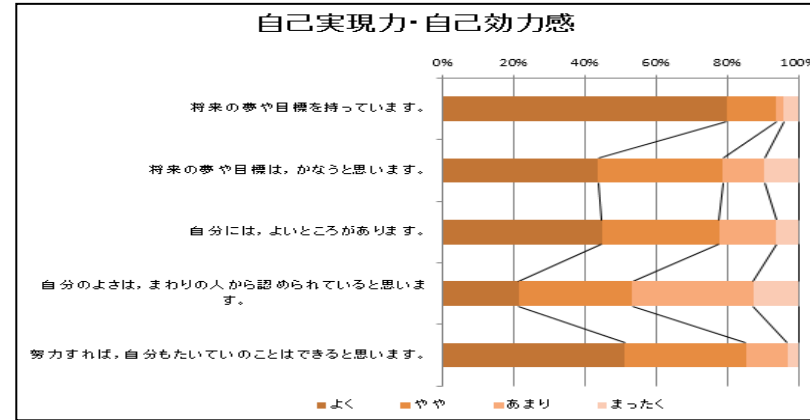
- 【課題1】・問題解決学習の過程において、一人一人が予想を図や言葉を使ってノートやワークシートに表現できるようにする。その後、全体で話し合う際には代表的な予想を板書し、自分と同じ考えにネームプレートを貼るなど、全員が自分の予想を表現できる活動をした上で、実験に取り組ませる。
・「問題に対する予想」と「実験方法」、「予想通りになった場合の結果の見通し」を並べて板書することにより、自分と他者の考えの違いを捉えさせ、それぞれの予想を検証する中で妥当な実験方法を見付けさせる。
- 【課題2】・説明する時の型として、「現状はこう→だからこうなる。」を必ず使わせ、説明不足の無い表現の方法を定着させる。
・水や空気は「動く」金属は「伝わる」などの、説明で必要となる理科学的なキーワードを定着させる。
・問題解決の過程を通して獲得した科学的な概念を、日常生活の事象と関連させながら説明する学習活動を設定する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H29「基礎・基本」
目標値			65%			4年65%・5年70%	70%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 調査問題			4・5年生 調査問題	4年生 H29「基礎・基本」
目標値			65%			4年65%・5年70%	70%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

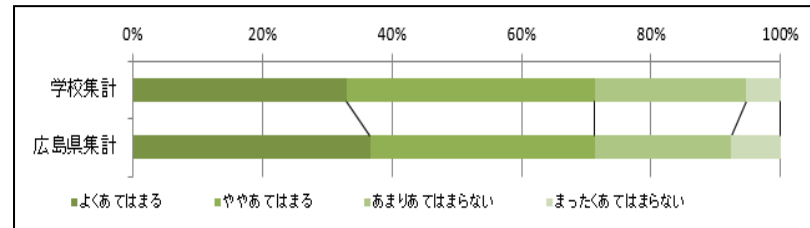
(1) 生活・学習



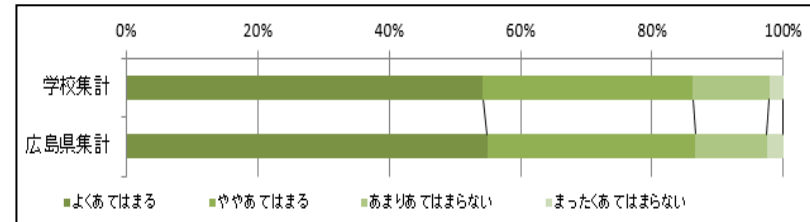
児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低く、自分のよさを周りの人からも認められていないと感じている。また、将来の夢や目標が具体的にもっていない児童が多く、努力によってできなかったことができるようになったという経験も少ない。 肯定的評価（自己肯定感：77.7%・他者からの承認53.2%）	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を多く仕組み、成功した場合には、しっかり褒めるなどの肯定的評価を行うとともに、失敗した場合には、要因を分析し、次へのステップとする。 朝の会や帰りの会、学級活動などで、友達のいいところ見つけをしたり、ありがとうメッセージのプレゼントをしたりして、お互いの良さを認め合う場を設定する。 	全学年	自己肯定感80% 他者からの承認60%	<ul style="list-style-type: none"> 「心の元気」アンケート キャリアカード 	12月 3月		

(2) 教科

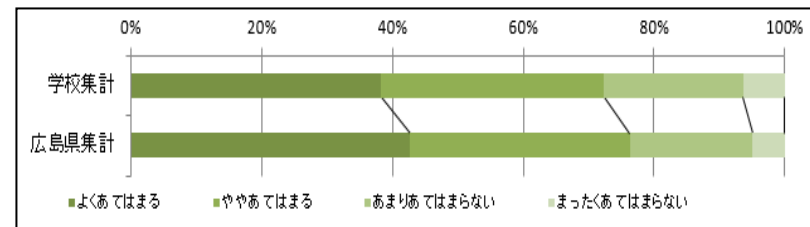
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



算数の授業では、自分のとき方や考え方と比べながら友だちや先生の説明を聞いています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りをする際、自分の生活との関連を考えたり、他の学習とどうつながっているのかを意識したりしている児童が少ない。 振り返りの場を、毎時間は仕組むことができていることや、児童にとって習慣化されていない。 肯定的評価（71.3%）	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と生活との関連について、教師が価値付けを行う。 単元の終わりには、ノートに振り返りを書くようにするとともに、振り返りの書き方も指導する。 ノートに書くことができない場合でも、口頭で振り返る習慣を意識付ける。 	5	80%	「学びの変革」児童意識調査	12月		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと友だちの考えの共通点や相違点を見付けながら聞くことができにくい児童がいる。 説明を聞く際、相手は何を伝えたいのかという内容の大体や要点をつかみながら聞くことができにくい児童がいる。 肯定的評価（86.2%）	<ul style="list-style-type: none"> 図・算数用語・式を関連付けながら説明させるとともに、根拠を明確にしなが筋道を立てて説明させる。 1人に説明させるのではなく、途中から複数人に繋げて発表させたり、話型を徹底し、順序立てて説明したりするよう指導する。 	5	90%	「学びの変革」児童意識調査	12月		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果や観察したことをもとに、筋道を立てて考えにくかったり、現象同士を関連付けて考察したりすることが難しい児童がいる。 考察したことを、理科用語を用いて説明するのに自信がもてない児童がいる。 肯定的評価（58.6%）	<ul style="list-style-type: none"> ペアトークやグループでの意見交換をする場を多く設定する。 実験する前に、目的意識を明確にさせ、理科用語を用いて実験結果や考察・自然現象などを説明する機会を多く仕組む。 	5	65%	「学びの変革」児童意識調査	12月		